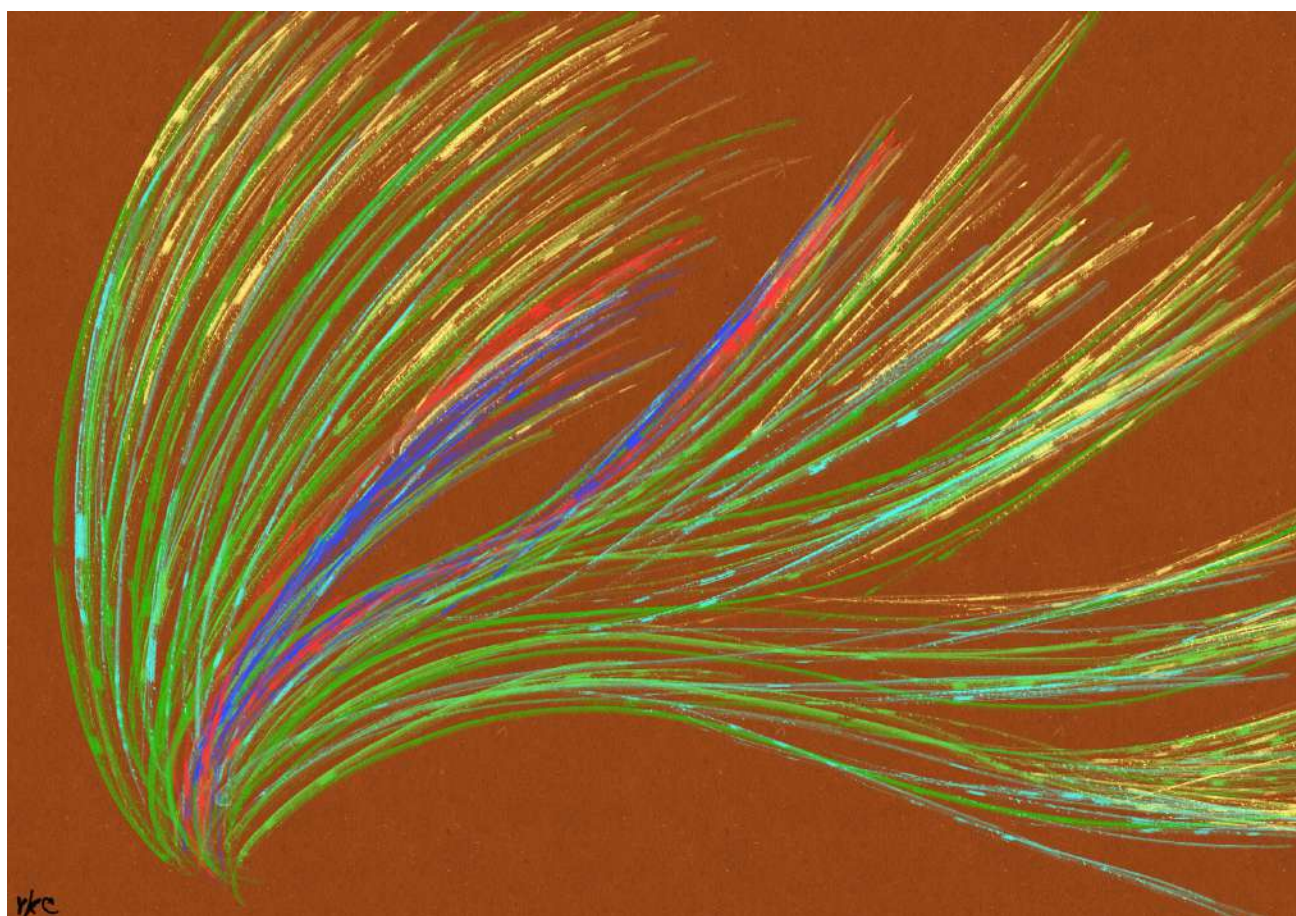

発達理論の学び舎

Back Number: Vol 318

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



No.1499 鞍馬山の静妙な霊気: Serene Reiki of Mt. Kurama

目次

- 6341. 【東京滞在記】ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町の自室より
- 6342. 【東京滞在記】東京滞在2日目の朝より
- 6343. 【東京滞在記】素晴らしい朝食を摂り終えて
- 6344. 【東京滞在記】現代アーティスト小松美羽さんとの対談講演会を終えて
- 6345. 【東京滞在記】過ぎ去りし祝祭
- 6346. 【大阪滞在記】大阪滞在に際して
- 6347. 【大阪滞在記】インテグラル理論の動画撮影に向けて
- 6348. 【大阪滞在記】大阪滞在3日目の朝に
- 6349. 【大阪滞在記】大阪でのセミナーを終えて/山口つばささんの『ブルーピリオド』を購入して
- 6350. 【大阪滞在記】今朝方の夢/『ブルーピリオド』を読み始めて
- 6351. 【高野山滞在記】高野山にて
- 6352. 【高野山滞在記】高野山の静謐さを感じて
- 6353. 【大阪滞在記】奥之院での共振現象を思い出して
- 6354. 【大阪滞在記】金沢に向かうサンダーバードの中で
- 6355. 【金沢滞在記】金沢の早朝未明に
- 6356. 【金沢滞在記】石川県立美術館と鈴木大拙館を訪れて
- 6357. 【金沢滞在記】金沢滞在3日目の朝に
- 6358. 【金沢滞在記】行雲流水としての自己
- 6359. 【金沢滞在記】西田幾多郎記念哲学館を訪れて
- 6360. 【金沢滞在記】日本人からの脱却と接近/今朝方の夢

時刻は午後5時半を迎えようとしている。今、ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町にいる。

先日「フォーブストラベルガイド2021」で5つ星を獲得したホテルの素晴らしさを感謝の念と共に堪能している。今この瞬間に身を置いている部屋番号は3334であり、この部屋の眺めは都会の夜景を見渡すという点において申し分ない。

部屋の大きな開放的な窓にはいじったことのないような自動ブラインダーがついていて、それを開けて窓からの景色を眺めている。スカイツリーが真ん前に見えて、皇居も真ん前に見えるという眺めだ。

今日の東京は昼あたりに雨が降っていたが、今はそれが止み、スカイツリーもくっきりと見える。完成したスカイツリーをこの目で見たのは初めてかもしれないということを総支配人の方と部屋を案内してくださった方に伝えた。

スカイツリーの思い出。今から6年前の私は、まだロサンゼルスにいた。

6年前の冬に一時帰国した際に、母方の祖母のマンションに立ち寄った。その時に祖母は足を悪くしていて、祖母を車椅子に乗せて近所の病院に付き添ったのを覚えている。あれだけ歩くことが好きだった祖母が思うように歩けなくなり、車椅子に乗って移動している姿をその時まで想像することはできなかった。そこからさらに2年前、つまり今から8年前にも祖母に会いに行った。その時にはまだ祖母は元気に歩くことができ、清澄白河の祖母のマンションから完成前のスカイツリーまで散歩がてら一緒に歩いた。その時に、「スカイツリーが完成したら、いつか一緒に登ろうね」と約束したのを覚えている。その約束を果たせないまま、祖母は今年亡くなった。

東京のキラキラした夜景が目の前に広がっている。昨日は、自然豊かな鞍馬山に身を置いていて、今日はそれとは対照的な環境に身を置いている。

再び窓の外を眺めてみる。都心のうねった道の上をたくさんの車がライトを灯して走っている姿が見える。そびえ立つ無数のビルたち。鞍馬山とは違う東京の持つ力と量感。

無数の高層ビルが発するネオンは何を伝えようとしているのだろうか。ふと視線を右にやると、国会議事堂が見える。33階のこの部屋から眺めると、国会議事堂はやたらと低く見える。

ビル。ビル。そしてビル。

今、部屋のパスボックスに何かが届られた。そもそも、パスボックスなどというものがあるホテルに初めて宿泊した。

パスボックスを開けてみると、朝日新聞の夕刊が届けられていた。そう言えばチェックインの際にも、朝どの新聞を届けたらいいのかを尋ねられた。その時には私は新聞を読まないということを伝えた。夕刊がせっかく届けられたので、これは後ほど時間を見つけて目を通そう。

あと20分ほどしたら、一瞬一生の会の第2期の最終回がある。明日は、現代アーティスト小松美羽さんとの対談講演会が、同じ敷地内の赤坂プリンスクラシックハウスで午後6時より行われる。後ほど、明日の対談講演会で着る予定のスーツにアイロンをかけておこうと思う。東京:2020/10/19(月)
11:22

6342.【東京滞在記】東京滞在2日目の朝より

時刻は午前5時を迎えようとしている。東京滞在2日目の朝は、午前4時に起床した。一度午前3時に目が覚めたが、そこで起床することなく、もう1時間ほど睡眠を取ることにした。

現在宿泊しているザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町のベッドは申し分なく、すこぶる快眠を取ることができた。目を覚まし、自室に備え付けられたiPadを操作して、ルームコントロールを行った。こうしたハイテク機器を使って電気の消灯を行うのは初めてである。電気の消灯以外にも、開放的な窓のブラインダーやカーテンの開閉もできる。さらには空調の設定もできるし、それ以外にもルームサービスやミネラルウォーターの追加のオーダーなどもできてしまう。後ほど、500mlのミネラルウォーターを4本ほど、そしてネスプレッソのカプセルを3つほど追加でオーダーしようと思う。

午前5時を迎えようとする東京の街はまだ暗い。それは空が暗いという意味であって、街そのものはビルの明かりで灯されている。とはいえ、今はまだ早朝未明であるから、その明るさは昨夜ほどではない。

今回ホテルに宿泊するに際して、部屋にバランスボールとヨガマットを持って来てもらうお願いをしていた。昨日も早速バランスボールにずっと座って自分の取り組みに従事していた。椅子は身体を弱体化・硬直化させ、寿命を縮めるとのことであり、それは本当だろうと思われる。バランスボールに座っていると、身体の微妙な動きに対してポジションが変動し、それに応じて身体も動く。そうした変動性の伴った身体動作が身体の弱体化や硬直化を防いでくれるのだろう。

現在使わせていただいているバランスボールは、テクノジム社のものであり、自分の自宅にあるものよりも質が高い。バランスボールそのものはゴムでできているのだが、専用のカバーがボールを覆っていて、そのカバーが高級感を出している。日本に戻って来てからの2週間は、バランスボールに座ることなく、立ったりベッドに座ったりを繰り返しながら読書をしたり、パソコンを操作したりしていた。2週間振りにバランスボールに座った時に、普段使っているバランスボールとサイズと空気の量が違ったので、一度思わず転がり落ちてしまった。そこでふと笑みがこぼれた。

ヨガマットを収納するケースの中に、見慣れない道具が入っていた。最初私は、それをヨガマットを立て掛ける花瓶のようなものと認識したのだが、「フォームローラー」と呼ばれる筋肉をほぐすための道具のようだった。それを用いれば、背中や腰、さらにはふくらはぎなどの筋肉をほぐすことができる。先ほどヨガをした際にはそれが何かわからなかったもので、使うことはなかった。後ほど早速使ってみよう。

目覚めのヨガはいつもと雰囲気異なる中で行った。今宿泊しているホテルの自室は1人では広すぎるぐらいであり、オランダの自宅のような雰囲気がある。家のように寛げる空間がここにある。景色に関してはオランダの自宅とは随分と異なっていて、見えるのは高層ビル群、スカイツリー、皇居、国会議事堂などである。こうした人工的な建築物を見ることは、たまにであれば比較的良い刺激になることを感じている。

京都のホテルと同様に、朝食はブュッフェ形式ではなく、注文式になっていて、昨日のチェックインの際に和食をお願いし、時間は午前8時からにさせていただいた。朝食までの時間は、いつもと同じように創作活動と読書に励みたい。午前7時から、スカイツリーや皇居を眺めながら朝風呂に入ろうと思う。東京:2020/10/20(火)05:11

6343.【東京滞在記】素晴らしい朝食を摂り終えて

時刻は午前9時を迎えた。ちょうど今、朝食を摂り終えて自室に戻って来た。先ほどの朝食は、大変素晴らしかった。朝食は最上階の36階のレストランで摂ることになっていて、今朝は和食を選んだ。

事前にベジタリアンである旨を伝えておき、魚は食べられるということを伝えておいたので、肉料理の代わりに魚の煮付けをいただいた。タラの煮付けは美味であり、明日もまた和食にしてもらい、明日はカレーの煮付けをいただけるとのことだった。およそ1年半振りに白米を食べ、その懐かしさに浸った。幼少期の頃から私は梅干しが大好物であり、1粒数百円ぐらいしそうな立派な紀州の梅干は大変美味であった。総支配人の知人の方のご配慮か、席も眺めの良い場所にしていただいている、東京の朝の景色を眺めながらの素晴らしい朝食だった。今日は天気の良いこともあり、眺めも素晴らしかった。

ちょうどあと1時間半後に、総支配人の方にホテルの見学をさせていただくことになっている。

「フォーブストラベルガイド2021」で5つ星を獲得した当ホテルには、様々な種類の部屋があり、せっかくなのでそれらの部屋の案内と、今日の夕方より行われる対談講演会で使わせていただくクラシックハウスの見学、さらには対談相手の小松美羽さんの作品が飾られているお隣の「東京ガーデンテラス 紀尾井カンファレンス」も見学させていただくことになっている。滅多なことでは、まして1人ではこのような立派なホテルに宿泊することはないであろうから、そうした見学ツアーをさせていただけることはとても有り難い。

これから見学までの時間に、今日の対談講演会の資料の最終確認をしたい。まずはPPTの資料を再度最初から最後まで目を通していこう。アニメーションの動作の確認をし、誤字脱字などがいないかをチェックする。実際の対談講演会では、小松さんや会場の皆様とのインタラクションを最優先に

し、準備した資料の全てを用いる必要は全くない。むしろ即興的に話が進んでいく方が面白いだろう。

ホテルの見学ツアーを終えて帰って来たら、読書をし、少しばかり仮眠を取る。今日の対談講演会は、午後6時から8時まで、その後に懇親会が10時までである。もう随分と前に時差ぼけは解消されているが、午後9時頃になると就寝に向けたモードになるので、今日の仮眠は気持ち長めにしてもいいかもしれない。仮眠後、シャワーを浴びて、着替えなどの準備をしたら、今日の対談講演会を実現させてくれた協働者の有馬さんと36階のミーティングルームで午後3時より最終打ち合わせをする。

小松さんご一行が到着するのは午後3時半であり、これまでZoomで何度かミーティングをさせていただいたが、直接お会いさせていただくのは初めてなので今からとても楽しみだ。東京:2020/10/20(火)09:29

6344.【東京滞在記】現代アーティスト小松美羽さんとの対談講演会を終えて

時刻は午前6時半を迎えた。時計の針を少しばかり巻き戻すと、今朝の東京の朝焼けはとても綺麗だった。スカイブルーに変わりゆく空の向こう側に、ぼんやりとオレンジ色の朝日が昇る姿を拝むことができた。今日も天気が良いようなので何よりだ。

昨日は、現代アーティスト小松美羽さんと対談講演会をさせていただいた。小松さんを含め、昨日の対談講演会にご参加いただいた多くの方々とは初めてリアルの場でお会いさせていただき、その点においてまずもって灌漑深いものがあつた。

講演会終了後、身内の数名の方々と夜中の2時半まで一緒に過ごさせていただいた。その際には、自分の誕生日を祝ってもらえたのである。そう、昨日の夜中であるから、それは10/21であり、自分の誕生日だ。自分の誕生日をリアルな場で誰かに祝ってもらおうというのは、前回はいつだったかわからないぐらい稀なことだった。最後がいつだったか本当に覚えていない。

今朝方の午前2時半に就寝したが、今朝方は午前5時半に起床した。本当はもうすでに午前4時頃には目覚めていたが、さすがに3時間は寝ておこうかと思った。今朝の睡眠時間はいつもより短い
が、今の状態はすこぶるいい。おそらく講演会によって興奮していたのだろうと思われる。

ちょうど同じホテルに宿泊している方の部屋で身内の方々と遅くまで話をした後に自室に戻った。
部屋のドアを開けると、そこにはスカイツリーを背景にした東京の夜景が広がっていた。夜景を見て、
少しばかり怖くなった。何に対して怖くなったのか？いやそれは実存的な不安のようなものだと
言ってもいいかもしれない。

昨日の対談講演会の中で、小松さんが破壊と再生の話をしていて。人間の発達が生と再生のプロ
セスだということはよく知られているが、小松さんの再生の捉え方がとても興味深く、その話が印象
に残っている。

また全てを一からやり直さないといけないと思った。最初私は、自分の不勉強を呪おうとし、もっと勉
強しないといけないと思った。全く勉強が足りないというある種の強迫観念の波が自己を襲った。だ
が、もはや勉強の問題ではないと思った。何かが根本的に足りず、何かが根本的に間違っている
のだと思った。

充足と不足。正解と不正解。そうした二元論。そうした二元論で自己を捉えることは愚かなことは承
知であるが、そう捉えなければならない。それは慣習的段階の「ねばならない」ではなく、ニーチェ
が指摘した、「聖なるすべし」ものである。

一体自分はここからどう始めたらいいのだろうか。それはよく分からない。よく分からない状態で、今
日からは大阪に移動する。大阪で数泊し、そこからは高野山に行く。その後、石川県に数日宿泊
し、東京でまた1泊、最後に福井で数泊宿泊する。

そうした旅の中で何か光が見えるだろうか。もう自分は根本的に間違っているのだから、まだ何も見
えないかもしれない。

時刻は午前7時を迎えようとしている。皇居上空の朝日の輝き！

今日は平日の水曜日なのだが、東京の街がどこか優しく見える。私は随分と昔の今日この日に生まれた。ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町の3334号室で誕生日を過ごしているということ。そこに至るまでの無限の縁。

ここから自分は一体どうやって生きていけばいいのだろうか。今の自分は根本から間違っているのだから、その自分にそれを考えさせてはならない。考えてはならないということを持ってして、縁や流れに身を任せることに向かおうとするその自分が根本的に間違っていると言いたいのである。この根本に間違った自己が矯正され、新たな存在に至るまでに、ここから多くの時間が必要そうだ。

東京:2020/10/21(水)07:01

6345.【東京滞在記】過ぎ去りし祝祭

祝祭のような時間が過ぎ去り、また独りとなった。今、新大阪行きの新幹線が東京駅を出発した。

一昨日、昨日、今日と珍しく日本の新聞に目を通した。リニアモーターカーの試験試乗が始まり、2027年以降に運行が始まる予定だという記事を見た。それは時速500kmも出るそうだ。

2027年。それは今から7年後の話。7年前、私はまだサンフランシスコにいた。いや、西海岸の大学院を卒業し、ちょうど7年前の今頃はニューヨークで働いている頃だ。あれから7年の歩みが1つの巨大な流れのように自分の中に流れ込んでくる。あの時から今にかけての歩み。それはとても遠い道のりであり、しかし振り返ってみると、短い道のりであったようにも思う。今から2027年に向けての歩みはどのようなものになるだろうか？全く検討がつかない。

昨日の小松美羽さんとの対談講演会の最後に、小松さんのこれからについて尋ねてみた。小松さんも、これからの歩みは未知であることを述べていた。それが発達の本質である。今この瞬間に想定できることなど発達ではないのだ。発達とは徹頭徹尾、未知なるものに向かい、未知なるものになることなのだ。

早朝の日記を思い出す。何かを書いていた。そう、何か言葉になろうとするものを書いていた。時にそれを隠し、時にそれを明るみにしながら、ゆっくりと何かを言葉として形にしていた。誕生日を迎えた今日は、晴天に恵まれた。

今、本当に素晴らしい秋晴れの空が見える。今日は半袖でもいいぐらいの暖かさだ。ここ最近のオランダの気温はどうなのだろうか。日本に帰ってきてからは、オランダの気温を一切確認していない。

この2日間お世話になったザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町の方々に大変感謝している。昨日の朝食と同じく、今朝もレストランではSさんに料理を運んでいただいた。昨日の和食とは異なる料理をいただいた。カレイの煮付けは美味であった。

昨日の対談講演会の楽屋で小松さんに、「アベノマスクを着けている人を初めて見た！（笑）」と言われた。最初私は一体それが何のことかわからなかった。実家の自分のデスクの上に未開封のビニール袋に包まれた新品のマスクが置いてあり、それが市かどこかから配られたものだという認識があったが、それが国から支給されたものとは知らず、はたまた大きさやデザインの観点から、それを着けている国民などほとんどいないということを私は知らなかった。その話は対談講演会の冒頭のまくら話となった。

小松さんにいじられたこともあって、今日から別のマスクを着けた。対談講演会の中で、小松さんがキャリア初期の代表作である『四十九日』と決別した話になった。私もアベノマスクと決別した。

今日はこれから梅田のホテルに向かう。明日から、アントレプレナーファクトリーの嶋内さんとインテグラル理論に関する動画撮影を3日間にわたって行わせていただく。

昨夜は本当に珍しく夜更かしをして、関係者の方々数名とホテルの部屋で午前2時半まで話をしていた。そこから自室に戻って睡眠を取り、今朝方目覚めたのは午前5時半だった。ホテルのベッドの質が良いからなのか、3時間ほどの睡眠でも十分だった。

今日は大阪のホテルに到着したら荷物を置き、仮眠を取ったら梅田駅に向かう。今回ワイシャツを3着持って来ていて、そのうちの1着を昨日着ようと思ったら、カフスポタンでワイシャツの手首を留めるものであり、カフスポタンを持って来ることをすっかり忘れていたこれも何かの運命かと思い、今日は梅田駅内のUNIVERSAL LANGUAGE MEASURE'Sルクアイーレ店でカフスポタンを1つ購入したい。その後、時間に余裕があれば、ホテルと目と鼻の先にあるジュンク堂に立ち寄る。

2つのスーツケースにはもう随分と荷物が詰め込まれているのだが、あと数冊ぐらいであれば書籍を購入できそうだ。今夜もゆっくりとお風呂に浸かり、明日の撮影に備えて早めに就寝しよう。新大阪に向かう新幹線の中で:2020/10/21(水)11:49

6346.【大阪滞在記】大阪滞在に際して

時刻は午前4時を迎えた。今朝は午前3時に目が覚めた。昨日は午後9時半頃に就寝し、快眠を取ることができた。昨日までの2日間は東京に滞在していたが、今日から3日間は大阪に滞在する。

現在協働しているアントレプレナーファクトリーさんとインテグラル理論に関する動画コンテンツの撮影を3日間かけて行っていく。そして明日にはリアルセミナーを行う。

今回持参したワイシャツのうちの1着がカフスポタンを付けるものだったが、カフスポタンをオランダに忘れて来てしまい、急遽梅田のUNIVERSAL LANGUAGE MEASURE'Sルクアイーレ店で、1つ綺麗なカフスポタンを購入した。明日の撮影とセミナーの時にそれを付けたいと思う。

一昨日の対談講演会の前に、知人の方から差し入れで和菓子をいただいた。約3百年の歴史をもつ長門という菓子屋の久寿(くず)もちを昨夜夕食代わりにいただいた。それは本当に美味しかった。

いったん日記の執筆の手を止めて、先ほど朝風呂に入った。旅行中は基本的に、朝風呂に入るようにしている。幸いにも昨日の東京と大阪は、日中半袖で過ごせるぐらいに暖かかった。とは言え、朝夕は冷えることもあり、朝と夜に浴槽にゆっくりと浸かって体を温めることは体に良いだろう。

昨日、カフスポタンを購入した後に、ジュンク堂大阪本店に立ち寄った。ここは、ウィルバーの書籍と出会った思い出のある場所であり、この書店でのウィルバーの書籍との出会いが自分の人生を大きく変えていったと言っても過言ではない。もう10年以上も前の話だが、ウィルバーの書籍と出会った当時のことを今でも鮮明に覚えている昨年もこの書店に立ち寄り、その時には森有正先生と辻邦生先生の書籍を数冊と、その他にも少しばかり和書を購入していた。今回もまた何冊か購入したい書籍があり、いろいろと吟味した結果、結局1冊だけ購入することにした。

山口県の実家から20冊近くスーツケースに詰め、そして先日の東京滞在中には協働者の有馬さんに預かっていただいていた8冊の書籍を受け取った。まだ少しばかりスーツケースに余裕があるが、すでに随分と重たいことは確かだ。結局昨日購入したのは、保守派の論客である西部邁先生の『虚無の構造』という書籍だけである。こちらは文庫本で小さいので、大阪滞在中のホテルや、数日後に大阪から金沢に移動する時にでも読み進めていこうと思う。

昨日のジュンク堂大阪本店でも数多くのコーナーを見ていった。哲学、政治学、社会学関係のコーナーで随分と多くの時間を過ごし、心理学のコーナーも少し見た。その他には、精神世界のコーナーでシュタイナーの書籍をパラパラと眺めていた。その後、映画批評に関するコーナーに立ち寄り、そこで色々と書籍を眺めている時に、今後は成人発達理論やインテグラル理論をもとにして映画を紐解いていくことを意識してみようと思った。

先日までは、これから探究を始めていこうとする領域の観点で映画を見ていこうと思ったが、やはり既存の知識を活用して映画を見ることも有益かと思った。また、映画批評の書籍を眺めてみた時に、まだ誰も成人発達理論やインテグラル理論の観点から映画批評を行っていないようなので、それをやってみる価値はあるかと思った。それらの理論はなかなかとつきにくい面もあるため、映画と紐付けて2つの理論に言及することは意義があるだろう。大阪:2020/10/22(木)05:14

6347.【大阪滞在記】インテグラル理論の動画撮影に向けて

時刻は午前8時半を迎えた。今、大阪の空は晴れている。しかし、今夜は少し雨が降るかもしれないとのことなので、折り畳み傘を持っていこうと思う。この日記を書き終えたら、着替えをして、アントレプレナーファクトリーさんのオフィスに向かう準備をしよう。

つい先ほど、今日の撮影に向けたコンテンツに関するドライブ上のファイルを開いていると、撮影をファシリテーションしていただく協働者の嶋内さんも偶然ながらオンライン上にいらした。そこでお互いにコンテンツを確認し、追加修正を施した。

あと1時間したらオフィスで最終打ち合わせをすることになっている。昨年の撮影と同様に、今回の撮影も非常に楽しみにしていたので、今日から3日間の撮影がとても楽しみである。コンテンツの大

枠の項目は決まっているが、話す内容についてはいつもながら一切決めておらず、その場で何が出てくるのかを自分でも楽しみにしている。

今朝方、社会学の生みの親であるオーギュスト・コントが提唱した段階モデルについて考えていた。コントは、その時代の人々の集合的知性が社会文明を規定していくという発想に基づいて、集合的知性の3つの段階と社会文明の3つの段階を提唱した。

最初の段階は、集合的知性においては宗教的な意識を持つ段階であり、それに対応する形で社会文明の軍事的段階を提唱している。宗教と戦争が密接につながっていることを考えると、そうした対応関係が確かに見える。次の段階は、集合的知性においては理性を司る段階(抽象的段階)であり、それに対応する社会文明として法学的段階を見出した。最後の段階は、集合的知性においては実証的、あるいは科学的段階(客観的段階)であり、社会文明としては産業的段階を提唱している。

一昨日の小松美羽さんとの対談講演会に関して、色々と感想が寄せられている。その中で大変興味深いのは、「時間の流れ方がいつもと違うように感じた」という感想や、「何か瞑想をしているような感じだった」という感想が多いことである。正直なところ、登壇している私もそのような感覚があり、気がつかないうちに2時間があっという間に過ぎていたという感じなのだ。また、対談を終えて2日たった今もなお、変性意識状態にあるかのような感覚がしている。今日の撮影は、この落ち着いた意識状態で行うことができそうであり、それが話の内容や話し方にどのような影響を与えるかは楽しみなところでもある。それではそろそろ着替えをして、ホテルを出発する準備をしていこうと思う。大阪：
2020/10/22(木)08:51

6348.【大阪滞在記】大阪滞在3日目の朝に

大阪滞在の3日目が始まった。今朝は午前4時に起床し、時刻は午前5時を迎えた。旅の最中の生活リズムとして、いつものように、つい先ほど朝風呂から上がった。朝にゆっくりと浴槽に浸かり、そこで瞑想状態をしばし味わうことのなんとも言えない小さな幸せを感じていた。

東京にせよ、大阪にせよ、やはり時空間的な質に関して、そこにゆとりを見出すことができない。至るところの人口密度が高く、それによる人疲れが不可避に生じる。幸いにも、今のところ東京でも大

阪でも、どこかに頻繁に外出することはなく、ごく少数の用事だけをこなしているため、人口密度がもたらす人疲れはさほど感じていない。空間的な観点のみならず、時間的な観点で言えば、東京も大阪も、人工的に作り上げられた早い時間の流れが遍満している。そしてそれが人々を縛っていて、大抵の人はそうした人工的な流れの中で生きていることに気づいていないようだ。

何度も確認する必要はないが、こうした時空間に身を置く限りは、真正の平穏さを感じることは難しく、常に何かに駆り立てられ、絵も言わぬ不安が身を纏うことになるだろう。自分が自分であることを許されず、自分が自分として落ち着くことを許されない時空間。そうしたものが広がっている。

今日は、アントレプレナーファクトリーさんで行っている撮影の2日目だ。昨年にも動画撮影をさせていただいていることもあり、スタジオの雰囲気にも慣れていて、昨日は最初から落ち着いた気持ちで撮影に臨むことができた。今回の一連の動画コンテンツはインテグラル理論を取り上げたものである。一昨年にインテグラル理論のオンラインゼミナールを開講し、そこで随分と多くのことを話したが、幸いにも今回の動画コンテンツにおいては、今まで話したことのないようなテーマや観点、そして概念が出てきた。今日と明後日にもまだ撮影があるため、新しくどのようなことが場に出るのかとても楽しみだ。今日は午前中の撮影を終えると、午後からは、リアルセミナーがある。このセミナーにおいても、参加者の皆さんとのインタラクションを楽しみにしていて、どのようなことがその場に出てくるか今から楽しみである。

明後日は、以前から楽しみにしていた高野山に足を運ぶ。アントレプレナーファクトリーの方々と一緒に高野山に1泊ほどして、高野山のエネルギーの恩恵を授かる。そこで癒しを得た翌日に、昨日と今日の撮影、そして本日のセミナーを踏まえて、もう1度動画を撮影する。撮影が終わり次第、皆さんに挨拶をしてオフィスを離れ、金沢に向かう。そこからは4泊5日の金沢旅行が始まる。金沢でもまた有意義な時間を過ごすことができるだろう。日本の滞在期間も気がつけば半分が過ぎていた。だがあとまだ半分弱残っていることは幸いか。大阪:2020/10/23(金)05:16

6349.【大阪滞在記】大阪でのセミナーを終えて/山口つばささんの『ブルーピリオド』を購入して

時刻は午後6時半を迎えた。今、大阪梅田のホテルにいて、つい今し方夕食を摂り終えた。今日は朝からインテグラル理論に関する動画撮影を行った。昨日に引き続き、これまであまり話したことの

ないような論点や考え方を紹介することができ、撮影をしながら自分でも面白さを感じていた。こうした肯定的な感情をもたらしてくれたのは、撮影のファシリテーションをしてくださる嶋内さんのおかげかと思う。明日は嶋内さんのご厚意で、高野山に旅行に連れて行っていただけることになっている。

明日の朝9時にホテルを出発し、電車で高野山に向かう。高野山には初めて訪れるので、先日訪れた鞍馬山との比較の観点においても楽しみであるし、純粹に高野山そのものを体験することもまた楽しみである。

今日は午前中の撮影を終えて、午後からリアルセミナーを行った。コロナの影響もあってか、昨年よりも参加者は少なかったが、その分参加者の皆様の関心を汲み取りながらセミナーが進行していったかと思う。セミナーの中でいくつか洞察に溢れる質問をいただき、もっと簡潔かつわかりやすい回答ができたのではないかと思うことがあったり、別の観点から回答できたものもあったのではないかと、新たな課題を見つけることのできる質疑応答であった。リアル場でセミナーをする機会は、1年に1回日本に戻ってきたときだけなので、今後も1つ1つのセミナーを大切にしていきたい。

セミナー終了後、再度ジュンク堂大阪本店に向かった。数日前に東京で行った小松美羽さんとの対談講演会の際に、ある漫画家の方と知り合うことができた。対談講演会後の懇親会の場で、小松さんとその方が話をしていて、話の輪に加えていただいたときにその方をご紹介いただいた。その方は、2020年にマンガ大賞を取られた山口つばささんという方だ。

小松さんが話の中で、山口さんがマンガ大賞を取られた『ブルーピリオド』という作品について紹介して下さった。作品に関する説明を聞きながら、とても面白そうな漫画だと思い、ぜひ読んでみたいと思った。この漫画は、主人公が美大を目指すスポ根美術漫画であり、成人発達理論やインテグラル理論とつながる部分もあるのではないかと感じ、先ほど第1巻から第8巻までの既刊全てを購入した。

主人公の成長プロセスを成人発達理論やインテグラル理論の観点から読むと面白そうだったし、そもそも美大受験がどのようなものなのかを理解したいという思いもあった。購入した漫画の帯に、「もう一度「好きなもの」に全力を注ぎたくなるスポ根美術漫画」という言葉が書かれていて、山

口さんのこの漫画が、自分の創作活動や探究にまた新しい視点や情熱を注いでくれるのではないかと思ったのである。

明日は高野山に行き、明後日は大阪で再び撮影の仕事があるが、そこからは金沢でゆっくりするので、その期間にまずは全巻を読み通したい。再読ができれば再読をし、母にも読んでもらいたかったら、東京のホテルのチェックアウト時に、スーツやワイシャツと一緒に実家に漫画を送ろう。自分で何度も繰り返し読みたいと思ったら、オランダに持って帰ることにする。いずれにせよ、良い漫画というのは良い書物と同じであり、子々孫々に引き継いでいくべきものだと思う。大阪:2020/10/23(金)18:46

6350.【大阪滞在記】今朝方の夢/『ブルーピリオド』を読み始めて

時刻は午前5時半を迎えた。今朝の起床はゆったりとしていて、午前5時前だった。

つい今し方朝風呂に入り、爽快な気分で行き先にいる。行き先にいることの大切さ。絶えず行き先にいる感覚を持って自己が存在している。

日本にやって来てもう2週間以上が過ぎたが、日本を十分に満喫させてもらったという感覚がある。正直なところと言えば、やはり大都市に身を晒すことは自己を徐々に疲弊させることにつながっていることがわかり、オランダの時空間に身を浸している感覚が恋しいと思うようになっている。

幸いにも今日と明日は高野山で時間を過ごすことができ、明日の夜からはまた大阪に滞在し、明後日の夜からは金沢での滞在が始まる。金沢での時空間は、大都市のそれよりも自分の内的感覚に合致しているだろう。

日本に帰国してから、驚くほど夢を見ていない。わずかばかりに夢の記憶が残っていることもあるのだが、基本的には目覚めた瞬間には夢の記憶が消えてしまっている。夢を見ていたのかさえ分からないような感覚が常にあるのだ。ところが、今日は少しだけ記憶に残る夢を見ていた。

夢の中で私は田舎町にいて、町にある空き地にいた。そこで2人の外国人と話をしていた。1人の外国人は小柄な白人系オランダ人であり、もう1人は細見だが大柄な黒人系アメリカ人だった。どうい

うわけか2人は日本語を熱心に学んでいて、2人とは日本語で話をしていた。最初に黒人のアメリカ人が口を開き、彼の日本語はとても流暢だと思った。

ひとたび白人系オランダ人の男性が日本語を話し始めると、彼の日本語はもうネイティブのそれであり、私はそこでさらに驚いた。それでは一体そこでどのようなことが話されていたのだろうか。それについてはもう記憶にない。

今、その他の場面についても思い出そうとしている。詳細に思い出すことはできないが、今朝方の夢は中立的な感覚を引き起こすものだったように思う。仮に言葉として思い出すことはできなくても、夢の感覚の残滓を起床直後に絵の形にしておいた。こうした試みを継続していこう。

先日の小松美羽さんとの対談講演会の際に知り合った山口つばささんの『ブルーピリオド』を早速昨夜から読み始めた。第1巻の途中まで読んでから就寝しようと思っていたのだが、内容がとても面白く、惹きつけられるものがあったので、気がついたら第2巻まで読み終えていて、就寝の時間になっていた。

自己の本質に目覚め、自己を表現するとは一体何なのか。ヨナコンプレックスと直面し、それを乗り越えていく過程が描かれていて、この漫画を購入して良かったと素直に思った。昨日購入した段階では、日本に滞在中に全8巻まで読み通し、時間が許せば再読をして、再読後には実家に送って母にも読んでもらおうかと思ったが、もっと繰り返し読みたいと思ったので、オランダに持ち帰ることにした。

今日は、午前9時にホテルを出発し、高野山に向かう。それまでの時間は、作曲実践をしたり、山口さんの『ブルーピリオド』の続きを読んでいこうと思う。この漫画を通じて得られたことについては、今後も日記に書き留めておきたい。大阪:2020/10/24(土)05:52

6351.【高野山滞在記】高野山にて

時刻は午前5時を迎えた。今、高野山の西禅院という宿坊の自室にいる。只今の気温は4度である。昨夜食事を運んでくださった宿坊の方が述べていた通りの気温であり、外はすこぶる寒い。幸

いにも宿坊の自室には暖房が効いていて、暖かく過ごすことができている。とは言え、高野山がまさかここまで気温が低いとは想像していなかった。

昨日から高野山に入ったのだが、日中の気温の低さにも驚かされた。高野山は山であるから、標高の関係上、地上よりも気温が低いことはある程度わかっており、暖かい格好をして来たのだが、その想像を超えるような寒さがあった。

昨日のことを少し振り返ってみたい。昨日は、午前9時前に梅田のホテルを出発した。行きに関しては、アントレプレナーファクトリーのMさんがホテルまで迎えに来てくださり、高野山まで案内して下さることになっていた。今回の高野山のプランは、そのMさんに立てていただいていたこともあり、Mさんにはとても感謝している。行きはホテルから車で行くのか電車で行くのかという2つの選択肢があったが、結局行きは電車で行くことになり、代表の嶋内さんとは現地で落ち合うことになった。自分でも電車の経路を一応調べていて、梅田から高野山駅に行くのはそれほど時間がかからず、2時間ほどで到着できてしまうことを知っていた。

梅田から高野山にかけては、Mさんと色々と話をし、都会の景色から徐々に自然の景色に変わりゆくその変化を十分に楽しんだ。Mさんとの会話を楽しみ、車窓からの景色を楽しんでいると、2時間の列車の旅はあっという間であった。ここでもまた時間感覚の変容があったように思う。

日本に帰って来てから、自分の内側の時間感覚が変化していることは歴然としていた。まるで時間が流れていないかのような時間感覚があり、気がつけばある一定程度の時間が流れているという感じなのだ。そうした時間感覚が今も自分を包んでいる。

極楽橋駅から高野山駅には、高野山訪問のシンボルであるケーブルカーに乗って移動した。ちょうどこの時期は紅葉が始まっていて、高野山の紅葉にしばし見惚れていた。

高野山駅に到着し、そこからはせつかくなので金剛峯寺まで歩いて向かった。高野山の標高は意外と高く、山頂付近の気温はさらに低かったが、歩くことによって体を温め、Mさんとの会話を楽しんでいると、金剛峯寺に無事に到着し、ちょうど昼時だったので、Mさんが事前に調べてくださっていた店に入ることにした。店の名前は「花菱」という。そこでいただいたのは精進ランチの「三鉢膳(さんこぜん)」である。

名前の由来は、高野山壇上伽藍にある「三鈷の松」という木から来ているとのことだ。食前の飲み物から始まり、いずれの料理も美味であった。特に、最高級吉野くずを使って練り上げられたごま豆腐は美味であり、田楽味噌が乗ったナスもまた美味であった。ゆっくり昼食を味わった後に、金剛峯寺で嶋内さんと合流し、そこからは金剛峯寺を含め、3人で高野山観光を楽しんだ。

今朝は午前6時半から、朝の勤行というものがある。それは本堂で行われるとのことであり、一体どのようなことをするのかはあまりよくわかっていない。30分ほどの勤行が行われたのち、朝食となる。昨夜の精進料理のコースは本当に美味しく、今日の朝食もまた美味しい精進料理をいただけるだろう。普段は朝食を食べない私も、今朝の朝食はとても楽しみだ。高野山:2020/10/25(日)
05:46

6352.【高野山滞在記】高野山の静謐さを感じて

高野山には静謐な時空間が存在している。そんなことをふと思う。

時刻は午前6時にゆっくりと近づいている。引き続き、西禅院という宿坊の自室で日記を書いている。宿坊というものに宿泊したのは今回初めてであり、最初私は、今回一緒に高野山に訪問した方々と広めの和室で雑魚寝をするのかと思っていたのだが、有り難いことに、1人1室綺麗な和室があてがわれていて、自分の時間を持ちながら、1人静かに時間を過ごすことができている。

昨日は金剛峯寺を拝観した後、恵光院に足を運び、そこで阿字観を体験した。かねてより真言密教の阿字観瞑想を体験してみたいという思いがあったので、今回の高野山観光において阿字観を体験できる機会をいただけたことを有り難く思う。

恵光院に到着し、阿字観の体験会が始まるまで、無料で提供されている温かいコーヒーをいただいた。コーヒーを飲みながら一服していると時間となり、参加者は阿字観道場に案内された。道場はとても広く、道場の前方には、「阿」という文字が描かれた綺麗な掛け軸が掛けられていた。「阿」という文字は、天地の誠を表す一字の真言とのことである。それは大日如来をシンボル化したものでもある。

体験会が始まると、最初に若い僧侶の方から阿字観瞑想についての説明があった。そこで実践方法に関する丁寧な説明があり、その後、時間としては短い、15分ほどの阿字観を行った。これまで長年にわたって瞑想実践をしてきた自分にとって15分はとても短いものだったが、日々瞑想をしていない人にとっては、15分でも長いと感じられたのかもしれない。

予想以上に多くの参加者が道場に集まり、久しぶりに集団で瞑想を行った。とかく1人称的な実践となりやすい瞑想を他者と同じ場所で一緒に行うという2人称的な実践として瞑想をしてみると、瞑想の深まりが普段とは随分と違ったように思う。ここに改めて、他者と実践を分かち合う2人称的な実践の価値を感じた。体験会終了後、僧侶の方と少しお話しさせていただく機会があり、そこで僧侶になるためのトレーニングについていくつか興味深い話を聞かせてもらうことができた。

恵光院を出発する前に、高野山に関するガイドブックを記念に1冊購入し、購入した日付と場所を書き込んだ。このガイドブックもまた、今回の旅の記念品として、これから長く自分の支えになるだろう。

時刻は午前6時を迎えた。もう少ししたら本堂に移動する必要がある。

部屋の襖を開けて外を眺めてみた。部屋の前には庭があり、手入れがとても行き届いて美しい。空はうっすらと青味がかっていて、本日の晴天を予感させる。

高野山には、瀬戸内海を拝むことができる実家や、オランダや北欧とはまた違う静謐さがある。その場固有の静謐さ。各地に固有の静謐さに包まれながら、ゆっくりと自己を深めていく時間を過ごしているということ。それはこの人生における恵みである。

さあ、今日もまた新たな1日が始まった。今日という貴重な1日をどのように過ごすかが、将来の日にバタフライ効果となって現れる。その瞬間のそこにあり続けること。それを絶えず大切に、大切にするという思考を手放す形で常にその瞬間のそこにいよう。今この瞬間においてここにあり続けているように。高野山:2020/10/25(日)06:11

時刻は午前5時を迎えようとしている。昨日の午後に高野山から大阪に戻って来て、今日もまたアントレプレナーファクトリーさんとの動画撮影がある。

昨日大阪に戻って来たとき、不思議な感覚があった。高野山の神聖なエネルギーを自己に取り入れたためか、高野山で流れていた感覚のままに大阪の街を歩いている自分がいたのである。

昨日は日曜日であったから、梅田の街もそれほど人が多くなく、俗世に再度入っていくにはちょうどいい日だったように思う。今回高野山に訪れることができたことを本当に有り難く思う。

今朝方はいかしの夢を見ていた。そこでは見知らぬ日本人が数名ほど登場していて、夢の言語は全て日本語だった。夢の中で強い感情が発露されるようなことはなかったが、誰かと比較的真剣な話をしていたのを覚えている。とは言え、その真剣な話の中にも笑いがあった。

日本に帰って来てから、詳細に覚えているような夢を見ていない。オランダにいるときにはあれだけ覚えていることができるのだから、その違いが不思議である。どういった理由で、日本に一時帰国中にあまり夢を見ないのだろうか。そのあたりについても考えを巡らせてみよう。

ちょうど今、ホテルの自室の浴槽に湯を張り終えた。この日記を書いた後、朝風呂に入ろうと思う。それにしても高野山は冷えていた。その寒さは冬のそれだと思ったが、冬になったらもっと冷え込むのだろう。

幸にも2日目の昨日は晴れていて、奥之院を歩くときには朝の太陽が暖かかった。高野山ではいくつかの名所を巡り、そこでパンフレットをもらったり、恵光院で阿字観を体験した際には、帰りに高野山に関するガイドブックも購入したので、そうした資料を眺めながら、日記を通じて言葉で体験の振り返りを行うことや、絵や曲という形を生み出すことを通じて振り返りをしたいと思う。言葉だけではなく、非言語的な振り返りができることを絶えず念頭においておこう。

ふと、昨日訪れた奥之院御廟での体験を思い出す。立派な護摩堂の中で、数名の僧侶たちが念仏を唱えていた。参拝者たちはその様子を後ろから眺めていて、私たちもその様子を眺めていた。

すると、自分自身は念仏を唱えているわけではないのだが、それを聞いているだけで、まるで自分も念仏を唱えているかのような意識状態になった。そこから徐々に意識状態が変化していき、意識も深まっていた。そこで体験されていたのは、念仏を唱えている者たちと自分の意識の共振現象である。彼らの意識状態と同一化し、深い瞑想状態にしばらく浸っていた。その過程の中で、日常生活における言語優位の状態から離れ、非言語的な意識状態に参入していることに気づいた。そうした非言語的な意識状態を体験することを通じて、言語によって構築されてしまった諸々のバグや傷が治癒されていくのを感じた。これはまさに言語的な意識状態から非言語的な意識状態に入ることの効能かと思う。

念仏は確かに言葉なのだが、それは言葉を通じて言葉を超えていくためにあるという見方もできる。言葉を超えた世界に参入すると、人は不思議な力を発揮し始める。それを実感させてくれるような体験だった。この体験が印象的であり、昨夜ホテルで就寝しようとベッドの上に横たわると、護摩堂で聞いていた念仏が突如として脳内で再現され、またしばらく深い瞑想状態にあった。意識状態を変える必要がある際には、昨日の共振現象を想起するようにしてみると面白いかもしれない。大阪:2020/10/26(月)05:18

6354.【大阪滞在記】金沢に向かうサンダーバードの中で

時刻は午後5時半を迎えた。つい先ほど、梅田駅から金沢に向けて出発するサンダーバードに乗った。ちょうど今、新大阪駅に到着し、1人の男性客が列車に乗り込んできた。ここから京都、福井、そして終点の金沢に止まる。今から2時間半ほどの列車の旅が始まる。

新大阪を出発した今この瞬間に、音楽と共にアナウンスが流れた。それは、列車の旅の高揚感を高めてくれるようなものだった。日本も日暮れの時間は随分と早くなっていて、今この瞬間はもう暗い。オランダはきつともっと早く日が暮れていて、もっと寒いのだろうと想像される。

今日のランチは、アントレプレナーファクトリーさんのオフィスの近くにある野菜料理の美味しい店に連れて行っていただいた。道中、太陽の光のおかげもあり、高野山と比べて、とても暖かく感じた。金沢での滞在期間も天気にも恵まれれば幸いだ。

大阪での数日間のアントレプレナーファクトリーさんとの協働について振り返っている。今回は、3日間の撮影だけではなく、2日目の撮影が終わってから、代表の嶋内さんのご厚意により、高野山に連れて行っていただいた。こうした機会をいただけたことは本当に有り難いことであり、高野山の神聖さに触れ、非日常的な意識状態を体験することを通じて、本日の3日目の撮影もまた印象的なものになったように思う。撮影のコンテンツとして、主テーマのインテグラル理論に沿って、実に多くのトピックや概念、そして実践技法について触れたように思う。

先日東京で行われた小松美羽さんとの対談講演会についても随分と取り上げることができたし、高野山の旅行についてもインテグラル理論の観点で取り上げることができた。そのように考えてみると、今回の動画コンテンツは、本当にご縁の産物である。今日の撮影を終え、実際に動画コンテンツがリリースされるのは予定としては来月末、遅くとも年内のどこかでリリースできそうだ。リリース後、視聴者の皆さんからの反応や意見がとても楽しみである。

ふと窓の外を眺めると、美しく輝く半月が見える。ぼんやりと月を眺めながら、この3週間弱の日本滞在に思いを馳せる。

今日の撮影の中でも、自分にとって日本にいることが非日常であることを述べた。本当にそうなのだ。この1ヶ月の滞在は、自分にとって本当に非日常体験である。オランダで再度日常に戻ることも少しずつ楽しみになっている。やはり自分が落ち着ける場所はオランダだ。煩わしさがなく、平穏な生活をするための拠点はやはり、日本ではなくオランダであることが感ぜられる。

オランダでまた落ち着いた生活を営んでいこう。その前に、これから金沢での4泊5日の旅を楽しみ、その後東京で対談セミナーを行い、その後に福井に3泊4日の旅を行う。それらの滞在もまたゆっくりと自分なりに味わっていこう。今回の一連の旅は、きっと未来の自分の何かに繋がっているのだろう。金沢に向かうサンダーバードの中で:2020/10/26(月)18:00

6355.【金沢滞在記】金沢の早朝未明に

今朝は午前2時過ぎに起床し、幾分早い起床となった。目覚めたのがそのくらいの時間であり、目を開けた瞬間に爽快な気持ちが襲って来たため、もうその時間帯に起きることにした。そこからゆっくりと朝風呂に入り、今の時刻は午前3時半過ぎとなった。

昨日、大阪での滞在を終えて、昨夜から金沢にやって来た。今、金沢駅すぐ近くのホテルに宿泊している。ホテルの自室からは金沢駅と金沢の町が見渡せる。起床して間もなく、部屋の窓から外を眺めていると、駅の近くの道を走る車の姿をちらほらと見かけた。

随分と早い時間に活動している人もいるものだと少しばかり驚かされた。東京や大阪などの大都市ほどではないが、街のネオンが光っている。

金沢での滞在は4泊5日となり、今日から本格的に観光を始める。幸いにも今日と明日は晴れのようにあり、明後日は雨のち曇りという予報が出ている。天気を考えると、歩き回るのは今日と明日がいいだろうか。とは言え、明後日も活動している時間帯は雨が降らないようであるから、天気をさほど気にせず行きたい場所に行こうと思う。

今日はまず、石川県立美術館に向かう。今回の金沢滞在では、美術館と記念館を巡り、金沢の街並みを堪能することが目的である。まず最初に石川県立美術館に立ち寄って、そこでゆっくりと芸術作品を堪能したい。今朝の今この瞬間の感覚が、芸術作品を求めている。端的には、芸術作品への飢えがある。こうした飢えの感覚は大切である。

今はその他にも創作への飢え、読書への飢え、はたまたオランダでの落ち着いた生活への飢えなど、種々の飢えがある。それらの飢餓感は、自己をここからさらに深めていくための重要な源泉になるであろう。

石川県立美術館に訪れた後は、美術館の近くにある鈴木大拙館に向かう。この記念館もまた、明日に訪れる予定の西田幾多郎記念哲学館と同様に、以前より足を運びたいと思っていたところである。当館においては、金沢が産んだ仏教哲学者である鈴木大拙の思想や軌跡を辿ることができる。先日実家に滞在したときには、鈴木大拙の書籍を何冊か再読しており、ますますこの記念館に足を運ぶことが楽しみになっている。

当館の基本方針を引用すると、「鈴木大拙館における展示は、単にものを鑑賞する場とせず、来館者が自由かつ自然な心で鈴木大拙と出会うことにより、そこから得た感動や心の変化を、自らの思索に繋げていくことを基本方針としています」と書かれており、この記念館が展示品を単に鑑賞する

ことを超えて、来館者の心を動かし、それを通じて各人の思索を刺激することを念頭に置いている
点に共感する。

鈴木大拙館を訪れた後は、兼六園を訪れ、そこでこの日本を代表する庭園を堪能しようと思う。し
ばし庭園で寛いだのち、金沢駅のスーパーで夕食を購入し、ホテルに戻ってきたい。今日もまた心
躍る1日になるだろう。今日の観光において、どのような光を観ることになるだろうか。金沢:2020/
10/27(火)04:01

6356.【金沢滞在記】石川県立美術館と鈴木大拙館を訪れて

時刻は午後3時を迎えた。つい先ほど観光を終えて、ホテルの自室に戻って来た。今日は実質上、
金沢の観光初日だったのだが、端的に述べて非常に感動した。この時期の金沢は紅葉がとても綺
麗であり、途中で何度も立ち止まりながら紅葉を眺めていた。今日は気温も暖かく、申し分ない観
光日和であった。

地方都市固有のなんとも言えない時間の流れ。昨年に岐阜や群馬を訪れたときにも感じたのだ
が、大都市にはない時間の流れが金沢にもあり、そのゆったりとした時間の流れに癒されるものが
あった。高野山の時とはまた違った意識の状態が絶えずあり、夢見心地の感覚が続いていた。

少し順を追って今日を振り返ってみたい。今朝は午前2時過ぎに起床したこともあり、ホテルの朝食
は朝一番の6時半から摂った。6時半にレストランに行くと、もうすでに何人かの客がいて、自分より
も早くレストラン入りをしている人がいることに驚いた。普段は朝食を果物しか食べないのだが、旅
行中はしっかりと朝食を摂ることが多く、今日のように歩くことが多い場合は尚更そのようにしてい
る。朝食を摂った後、レストランから自室に持ち帰ったエスプレッソをゆっくり飲み、自室で少し休憩
をしてから、まず最初に石川県立美術館に向かった。

本日の天気は申し分なく、もう11月が目と鼻の先であるが、しばらく歩いていると体が熱くなり、羽
織っていたカーディガンを脱いで、半袖になった。それぐらいに今日は午前中から暖かかったの
だ。ホテルから40分弱歩くと、兼六園が見えて来て、すぐ近くに目的地の石川県立美術館があっ
た。石川県は美術工芸が盛んであり、金沢美術工芸大学もあり、芸術が盛んな地域である。

石川県立美術館の常設展示は、第6展示室まであり、とりわけ後半の第3から第6展示室に置かれていた明治以降から現代までの絵画作品が印象に残っている。館内は写真撮影が禁止になっていたこともあり、名前は覚えていないが、同じ作家で地球を背景にした絵と、月を背景にした絵が圧巻であった。それらの作品を特に時間をかけて鑑賞していた。

美術館で1時間半ほど過ごした後に向かったのは、鈴木大拙館である。石川県立美術館からそこまでは歩いてすぐの距離にあり、途中で石川県立工業高校の前を通った時、とても賑やかにしていたので何かと思って立ち止まってみたところ、どうやら文化祭をやっているようだった。

ポカポカとする陽光を浴びながら、ふと自分の高校時代の文化祭を思い出し、微笑ましい気持ちになった。再度歩き始め、無事に鈴木大拙館に到着すると、この記念館の気品に感銘を受けた。記念館そのものは大きくないのだが、鈴木大拙を知る「展示空間」、鈴木大拙の心や思想を学ぶ「学習空間」、来館者それぞれが自ら考える「思索空間」の3つで構成されていて、実に素晴らしい記念館だと思った。何よりも水鏡の庭が見事であり、水が張られた庭そのものが芸術作品のように思えたのである。しばし椅子に腰掛けて、ぼんやりと紅葉と水鏡の庭を眺めていた。時を忘れるような静謐な時間がそこに漂っていた。

時間の流れではなく、時間の漂い。それを感じている自分がそこにいた。そして自分は、そうした時間の漂いそのものだった。

記念館に所蔵されている貴重な資料を十分に眺め、水鏡の庭をゆっくりと堪能した後に売店に立ち寄り、そこで記念館の公式ガイドブックと、鈴木大拙著『大乘仏教概論』『神秘主義:キリスト教と仏教』『禅と日本文化』の3冊を購入した。それらの書籍は、鈴木大拙館で購入した思い出のある書籍になるだろう。今から早速それらを一読したいと思う。明日は鈴木大拙と金沢の第四高等学校で知り合い、生涯の友となる西田幾多郎の記念館に足を運ぶ。金沢:2020/10/27(火) 15:36

6357.【金沢滞在記】金沢滞在3日目の朝に

時刻は午前5時半に近づきつつある。昨日は午前2時過ぎに起床したが、今日はゆったりと午前4時半頃に起床した。金沢滞在の3日目がゆったりと始まった。起床直後に絵を一枚描き、その後朝風呂にゆったりと浸かって今に至る。

ホテルの自室の窓から金沢の街を眺めると、街はまだ眠りについていることがわかる。金沢に流れる、どこか悠久さを感じさせる時間の中で、この世界を豊かに生きていくことと、この世界を効率良く生きていくことは多分に異なることを思う。私たちは両者のせめぎ合いの中で生きているのだろうか。本来は前者の生き方を心の内では望みながらも、この社会が後者の生き方を迫って来ているのだろうか。

それにしても金沢の時の流れは緩やかだ。高野山とはまた異なる時の流れがある。鞍馬山のそれとも当然ながら異なる。

自分にとって日本は、もはや異国情緒をもたらす場所になった。端的に述べると、欧州各地を旅しているときには、もはや見慣れた安心感のようなものがある。もちろん、初めていく場所においては新鮮さがあるのは確かだが、欧州は異国情緒を喚起するような場所ではもはや無くなっている。一方、不思議なことに、異国情緒をもたらすのは日本なのだ。これは一体どのような感覚変容なのだろう。

今年日本に帰って来て、日本の受け取り方がまた少しばかり変化があったことに気づく。毎年日本に帰ってくるごとに、感覚変容が起きていることに気づく。そうした内的な感覚の変容こそ、自己の本質的な変容の証左だろう。

刻一刻とオランダに戻る日が迫っている。正直なところ、確かにそろそろオランダが恋しくなっている頃だ。日本の地方都市にも落ち着きがあるのだが、それはオランダのそれとは根本的に何かが違う。昨日も金沢の街を歩きながら、日本という国が、非居住者として観光するには最も心を落ち着かせてくれる場所であることを思った。一方、この国には決して住むことはできないと改めて思ったのである。その理由は以前からあまり変わらない。

オランダに帰るのはちょうど来週の今日だ。今回はアムステルダムで少しゆっくりする。久しぶりにアムステルダムを観光し、訪問予定の2つの美術館には数年振りに訪れる。日本で得たのと同じように、そこでもまた感覚変容に関する気づきを得ることができるだろう。

金沢滞在の3日目の今日は、西田幾多郎記念哲学館に足を運ぶ。偶然ながら、2020年となる今年には、日本を代表する思想家の西田幾多郎と鈴木大拙の生誕150年である。2人は、旧制第四高等

中学校時代から生涯に渡って親友であったことを昨日知った。昨日は鈴木大拙館に訪れ、今日訪れる西田幾多郎記念哲学館は、2人の生誕150周年を記念して、片方の記念館の半券を用いれば無料で入館できる。

ゆったりと朝食を摂り、少しばかり休憩をしたら、西田幾多郎記念哲学館に向かう。今日もまた、これからの感覚変容の基礎をなす様々な体験を積むことができるだろう。金沢:2020/10/28(水)
05:37

6358. 【金沢滞在記】行雲流水としての自己

—全宇宙が聞いたから、あなたが聞いたのである—鈴木大拙

時刻は午前5時半を迎えた。金沢の街はまだ暗い。

幸いにも今日もまた天気恵まれるようであり、日中は20度にまで達する。紅葉の美しい今の時期の金沢は、街そのものが1つの芸術作品であるかのようだ。そうなのだ、本来素晴らしい街というのはそこに芸術性がある。いや、街が成り立つ前の土地そのものは、いかなる場所においても聖なるものであり、芸術性を越えたものだと言えるかもしれない。

あらゆるものが相互に働き関わり合っているという重々無尽の精神が今の自分を襲う。今この瞬間の自分もまた、重々無尽による縁起の働きによってここに存在している。

自分が足を動かすと自分は移動するのだが、絶えずそこに自己がいる。自分は一度たりとも自己と離れたことはなかった。ここで言う自己とは、決して小さな自我のことを指しているのではなく、それを越えた存在である。それは絶えずそれとして今ここに居続けている。その自明かつ驚愕の事実を噛み締める。それを噛み締める自分もまたそれであるということがおかしくてしょうがない。

今日もまた秋のちぎれ雲を金沢の青空に見ることができるだろうか。流水の如き時間の流れを今日もまた感じるることができるだろうか。どちらもできるだろう。なぜなら、それらはいついかなる時も自分の内側にあるからである。

行雲流水。自分はそれであり、自分はそのように日々を生きている。物事や自己に深く執着することなしに、自然の成り行きに任せて自己が呼吸を続けている。自己は自然な呼吸でもあるのだ。

自己は何にでもなれる。そして全ては自己なのだ。自己は一定の形を持たず、自然の移り変わりによって淀みなく変化する。

魂は渴きを癒すようにして育まれていくものなのかもしれない。そのようなことを改めて昨日思った。魂の渴きそれそのものは否定的なものでは決してない。魂を生み出すそれは、魂の渴きを微笑ましく眺めている。今日もまた自分の魂は、渴きを癒すようにして水と養分を求めるだろう。ゆっくりと魂を育んでいくこと。とにかく焦らずゆっくりだ。

昨夜就寝する際に消灯し、目を閉じてみると、まぶたの裏に色鮮やかな千変万化するイメージが浮かび上がった。それは過去の諸々の体験と新たな体験の記憶が混じり合った極彩色のイメージであった。そのイメージ、ないしはビジョンの運動をしばらく静観していた。

今朝方は、少しばかり夢を見ていたのを覚えている。夢の中で私は、幼少時代に見ていたアニメのキャラクターと話をしていた。そこでの言語は日本語だったが、途中から見慣れない外国人と話をしていたのを覚えている。その外国人と一緒に、何か謎解きのようなことをしていた。総じて、高揚感のあるような夢だった。

金沢の街が薄明るくなって来た。街もまた就寝し、起床し、そして絶えずゆったりとした呼吸をしている。金沢:2020/10/28(水)05:53

6359.【金沢滞在記】西田幾多郎記念哲学館を訪れて

—哲学の動機は「驚き」ではなくして、深い人生の悲哀でなければならない—西田幾多郎

時刻は午後5時を迎えようとしている。少しばかり早いのが、つい今し方夕食を摂り終えた。

今日の金沢もまた天気恵まれ、午前中より西田幾多郎記念哲学館に足を運んだ。端的には、昨日の鈴木大拙館と並んで、この記念館もまた素晴らしい体験をもたらしてくれた。

午前9時半頃にホテルを出発し、金沢駅から宇野気駅に向かった。西田幾多郎は、1870年にこの地に生まれた。

金沢駅から宇野気駅までの道中はとても長閑であり、黄金色に輝く稲穂と、立派な柿をつけた木々を見た。宇野気駅に到着し、駅員の方に記念館の方向を尋ね、そこから15分強の散歩を楽しむと、非常に立派な建築物が見えて来た。

西田幾多郎記念哲学館は、建築家の安藤忠雄氏によって作られたものであり、昨日訪れた鈴木大拙館と同様に、見応えのある建築物であった。早速館内に入り、昨日訪れた鈴木大拙館のチケットを見せ、無料で館内に入った。今日は平日であったこともあり、また現在のコロナ下もあって、入館から1時間半ほどは私以外に来館者はいなかった。そこから私は、3時間以上に渡って、館内に所蔵している資料を文字通り一言一句眺めていった。昨日と同様に、館内をくまなく見た後に、ミュージアムショップで3つほど文献資料を購入した。今夜はそれらにじっくりと目を通したい。

いくつか列挙する形で、記念館で書き留めたメモをこの日記に書き連ねておく。伝統と創造性に関して、伝統があるからこそ高い意味での創造が生まれるという西田の指摘が印象に残っている。西部邁先生が述べるところの保守派が大切にするのは、そうした伝統なのだろう。そうした伝統に立脚する形で行われる創造活動は、高きものに向かっていく。

西田幾多郎と自分に共通していることは、紫色を好むということと、創作活動を愛しているということだった。西田の書き残した文章の中で、赤でもなく青でもなく、紫の色鉛筆で修正が施されていることが印象的だった。西田は、愛する子供たちが病気に罹り、生活が危ぶまれる危機的な状況において、短詩の創作に癒しを求めた。哲学者西田幾多郎は、短詩、さらには書など、創作人でもあったことが印象に残っている。

西田が述べるところの「絶対無」という考え方は、ロイ・バスカーが述べる「実在世界 (the real)」と相通じるものがある。そこは何も無いのではなく、全てがあるということ。あるいは、未だ不在のものも含めた全てが生じ得る場としての意味を持つ。「経験世界 (the empirical)」や「現実世界 (the actual)」において未だ経験や言葉にならないものが絶対無から生じ得るということをぼんやりと考えていた。

館内を十分に見学した後に、建物の外の「思索の道」を歩いた。そこはさながら京都の哲学の道のようにであった。静けさが汪溢していて、秋のそよ風が頬を伝っていった。

今日もまた、なんと素晴らしい体験をすることができただろうか。そのことにただただ祈るような感謝の念を捧げたい。金沢:2020/10/28(水)17:12

6360.【金沢滞在記】日本人からの脱却と接近/今朝方の夢

時刻は午前4時半に向かおうとしている。今朝は午前3時半過ぎに起床し、そこから朝風呂に入った。少し熱めのお湯にゆっくりと浸かり、風呂から出た今もまだ発汗している。

日本各地を旅行し、その土地固有のものを取り入れながらも、先ほどの朝風呂のように何かをデトックスしている自分がある。不思議なことに、日本的なものを自分の中に取り入れながら、同時に日本的なものを外に出している自分がある。今の自分をより一層深めてくれるような肥やしとしての日本的なものを取り入れていて、既存の自分にとって不要になった日本的なものを外に出している。そのような説明ができるかと思う。こうした自己の発酵過程を辿れば辿るほど、自分は日本人になっていき、日本人から離れていく。端的には、深層的な日本人になることは、表層的な日本人から脱却することなのだ。過去数年にも増して、今、それが自分の中に起こっている。

昨夜は1時間ほど協働プロジェクト関係のオンラインミーティングがあったが、自分の人生は旅をして、日記を書いて、絵や音楽を作り、読書をし、そして映画などの映像作品を見ることを通じて進んでいる。

西田幾多郎が読書を二義的なものとみなし、自分の思索活動を最優先させたように、自分もまた自らの創作活動を最優先させていこう。昨日挙げた以外の西田幾多郎との共通点は、朝の時間を自らの創造活動に充てたことだろう。朝に面会することや読書をするのを避け、朝はとにかく思索活動に没頭した西田。自分もまた、朝の時間は何かを取り入れるのではなく、何かを作ることに充てていく。

今朝は何かしらの夢を見ていたが、記憶があまり定かでは無い。確か、何らかのアニメのキャラクターが登場していたように思う。その他にも、同い年ぐらいの見知らぬ男女も夢に現れていて、彼ら

と何かについて話をしていた。場所は今いる金沢だったように思う。妖怪の話を聞いて、妖怪に対峙する夢だったような気もする。妖怪に対峙すると言っても、それを成敗するような類のものではなく、妖怪と対話をし、彼らの望みを聞くような雰囲気を持つものだったように思う。

金沢の滞在は、今日が実質上最後になる。ホテルのレストランでゆったりと朝食を摂り、自室で少し休憩をしたのちに、泉鏡花記念館と金沢能楽美術館に足を運ぶ。確か前者は両親も以前訪れていたのではないかと思う。後者に関しては、今少しばかり日本の伝統芸能に関心を持っている自分がいて、能はまさにその1つだ。中学校3年生の時に一度能を見る機会があったのだが、その時は全く興味を持てなかった。内面の成熟に伴って見えてくる美や感じられる美があり、今、ようやく能が放射する美を感じられる自分が生まれ始めた。金沢:2020/10/29(木)04:33